

## 高月院：松平氏墓所

高月院は松平家の菩提寺であり、一族の死者の葬儀を執り行う役割を担っていた。そのため、初代当主である松平親氏（伝 1394 年没）の時代から徳川幕府の崩壊（1867 年）まで、多大な保護と援助を受けていた。

松平氏墓所は、高月院の歴代住職の墓の先、境内の奥にある小高い丘の段丘にある。ここにある3つの墓碑は、親氏（中央）、その後継者である泰親（右）、そして5代目当主である長親の母（左）である。いずれも遺骨を納めたものではなく、供養塔であると考えられている。

松平家が3代目当主・信光（1404-1488）の時代に領地を拡大し故郷を離れたため、高月院で葬儀が行われたのは初代と2代目だけであった。長親の母の墓は、息子の一人が高月院の住職になった後、ここに移されたとされる。